

# Global Speaker になるためには

宮城県仙台第三高等学校 普通科

## 要旨

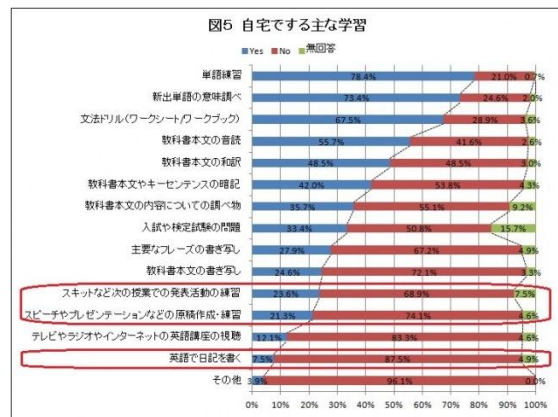
わたしたちの探究テーマは「Global Speaker になるためには」である。私たちは英語のスピーキング能力を向上させる方法を探究した。私たちの研究での Global Speaker とは、外国人と問題なくコミュニケーションをとることができる人のことを指す。本探究の目的は、誰もが英語を上手に話せるようになる方法を探究することである。本校の教師と生徒を対象に調査を実施した。その結果、教師と生徒は英語のスピーキングについて同じ考えを持っていることがわかったが、Speaking を実践できている生徒は少ないことがわかった。今回の探究を通して、英語を話す時間を増やす必要があると考えた。

## はじめに

高校 1 年生の 10 月に台湾の学生と交流があったが、うまく英語でコミュニケーションをとることができなかった。そこで、私たちは外国のどんな人とも話せる Global な Speaker になるための方法を探究した。ここで私たちが向上させたいスピーキング力とは、外国の方とコミュニケーションをとるときに問題なくスムーズに会話ができる力のことを指す。

## 1 先行研究

### (i) 文献調査

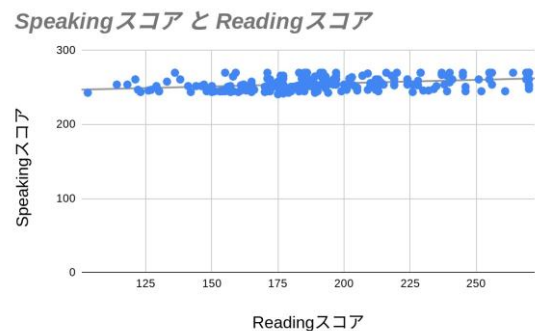


赤線で囲んだ「自分で英文を作って話す」ことにつながる活動はあまり行われていない

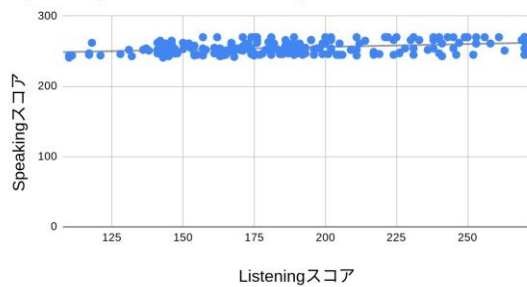
生徒個人が自宅で行う学習では、「単語・文法・教科書」などのインプットの学習が多く、スピーキングの向上に効果的だとされている発表活動や日記を書くなどスピーキング力を伸ばすことに繋がる活動が出来ていないことが読み取れる。

### (ii)

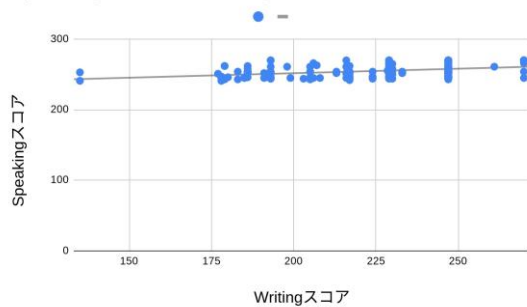
本校 3 年が高校 1 年生に行った GTEC でのスコア上位 200 人のスピーキングスコアと各技能のスコアをもとに調査を行った。



SpeakingスコアとListeningスコア



SpeakingスコアとWritingスコア



スピーキング

## 2 調査1

本校のスピーキングに対する認識を調査するために2つの検証を行った。先生と生徒の認識の違いを調べることで、スピーキングの練習方法を見つけるヒントになるのではないかと思います、調査を行った。

### a)検証1

昨年の10月に本校の英語教員6名にインタビューした。

〈インタビュー内容〉

- ①スピーキングに1番必要だと思う要素
- ②英語を話すときに意識していること

結果

〈先生方から意見が多かったもの〉

- ①瞬発力、ミスを恐れない、考えすぎない、度胸、相手に興味をもつ
- ②シンプルに伝える、話す順番、具体例を出す、ジェスチャー、相手の反応をみる

### b)検証2

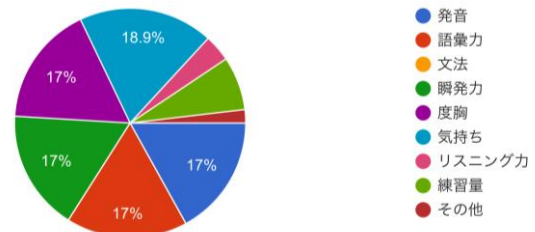
本校の生徒(60人)にアンケートをとった。

〈アンケート内容〉※全て選択肢から1つ選択

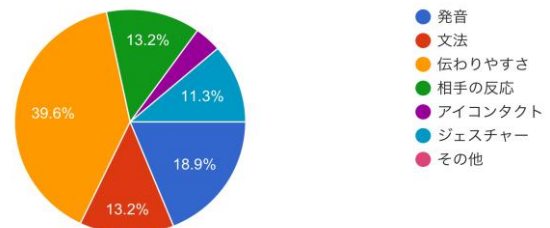
- ①スピーキングに1番必要だと思う要素
- ②英語を話すときに意識していること
- ③スピーキングの練習に充てている時間

結果

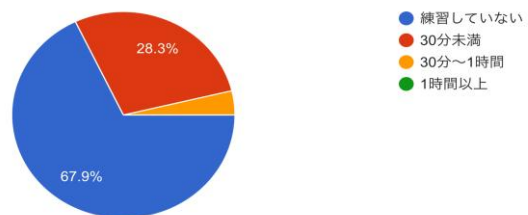
- ①スピーキングに1番必要だと思う要素



- ②英語を話すときに意識していること



- ③スピーキングの練習に充てている時間



考察

先生たちと生徒たちが考えるスピーキングに必要なと思う要素と意識していることはほとんど同じであることがわかった。

しかし、①のアンケートの結果は5つの選択肢にばらついていて、これはスピーキングには他の技能に比べて必要な要素が多くそれぞれ平等に必要なのではないかと考えた。

また、約70%の生徒がスピーキングの練習をほとんど行っていないことがわかり練習の時間の量がスピーキング力の向上に関係があるのではないかと推測した。

### 3 調査2

昨年の12月の修学旅行で、関西外国語大学を訪問し、福田和生准教授と国際共生学部の学生3名にインタビューした。



Q.1 スピーキングに1番必要だと思う要素は？

A.(福田さん)恐れずに話すこと。言語は表現であるため、発言に対する姿勢を変えるべきである。

Q.2 英語を話すときに意識していることは？

A.(学生さん)話してみること。日本人はミスを恐れすぎ。できるだけ簡単な単語ではっきり、ゆっくり話すコツ。

文法を意識しすぎずに、カジュアルな会話をする。分からなかったら聞く。

Q3. スピーキングを上達させるためにやっていたことは？

A.(学生さん)ドラマや映画、海外アーティストのインタビュー動画などを見て、その人になりきる。独り言を英語にして、分からなかったら調べる。

Q4. 日本の英語教育に必要だと思うことは？

A.(福田さん)Study Englishではなく Studying Englishを目指すべき。英語が使われる環境に身を置いてみる。主体的に学ぶ姿勢が大切。

Q5. 私たち高校生にとってスピーキングを伸ばす上で必要なことは？

A.(福田さん)とにかく話す。話す機会を自分で探して、英語を話そうとすることが大切。

### 考察

インタビューを通して、失敗を恐れずに簡単な単語でゆっくり主体的な姿勢で話そうとすることが大切であると考えた。

また、それを実践するために、スピーキングを行う時間や機会を自分で見つけ、積極的に話す必要があると考察した。

### 4 まとめ

今回の探究の目的は、誰もが英語を上手に話せるようになる方法を探ることである。

探究を通して、失敗を恐れずに簡単な単語でゆっくり主体的な姿勢で話そうとすることが大切であると考えた。

それを実践するために、スピーキングを行う時間や機会を自分で見つけ、失敗を何度も経験しスピーキングに自信をつけることが効果的だと思われる。

今回の探究では、スピーキング力を測るテストなどがなく、目に見えるデータとして示すことができなかった。スピーチによるテストと conversation テストのようなスピーキングの中でも必要とされることが異なるテストを自分たちで用意したり、英語の授業の中で実践してもらうなどしてデータを取れば良かったのではないかと考えた。

### 参考文献

PRTIMES 高校1年生と英語教師の英語スピーキング能力の実態を調査。高校生は“定型的な受け答えならできる”、教師は“英語で授業が可能”なレベルという結果にー『アルク英語教育実態レポート Vol.6』4月22日発表

[https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000808.000000888.html](https://prt看mes.jp/main/html/rd/p/000000808.000000888.html)

**abstract**

This study examines the method that improves speaking in English. The Global Speaker defined by our research is a person who can talk with foreign people without any problems. Our research' purpose is to explore how anyone can speak English well. The research involved a survey of teachers and students in our school. The results showed that the teachers and students have the same idea about speaking English. The finding suggests that we should increase the time we spend speaking English.